

ひらく

●一点を支点としてひらく●窓・扉を
ひらく●道をひらく●口・目をひらく●
花がひらく●運をひらく●文化を
ひらく●インターネットをひらく●新
聞・本をひらく●講座・会をひらく

—— 未来をひらく、心をひらく ——



特集

広めよう! 楽しもう!
男性の家庭参加

2017.10

41

男女共同参画社会をめざす

特集

広めよう！楽しもう！

男性の家庭参加



今年4月に施行された小平アクティブプラン21(第三次小平市男女共同参画推進計画)の3つの「重点項目」の最初に、男性の家庭参加(家事、育児、介護等)の推進が書かれています。

これに呼応するかのよう、仲町公民館では今年7月8日から「パパご飯 家族が喜ぶパパッとレシピ」という講座(全5回)が開催されました。参加者は10名程度でしたが、30代、50代のパパたちはみんな楽しそうに受講されていて、講座が終わった後に行われた交流会で、家族連れで楽しむイベントの開催を決めていました。

「パパご飯

家族が喜ぶ

パパッとレシピ」

7月15日(土)の午前10時に仲町公民館に行くと、頭を三角巾で覆ったエプロン姿の男性が2つのテーブルを囲むように座り、女性講師の話聞いていました。外から見ると、始めは何の講座かわかりませんが、すぐに料理の講座であることがわかりました。

テーブルに野菜が置かれ、まな板と包丁が配られると、男性たちがキャベツの千切りを始めたのです。講師が切ってみせた後、男性たちが順に切るので、大きなキャベツを千切りにするのは簡単ではありません。キャベツを半分に切り、さらに半分



3ミリ幅に切っていくのです。さらに、キュウリ、ニンジン、玉ねぎ、この日の料理に使う野菜を切っていきます。速さや正確さは違いますが、みなさん一生懸命。

野菜切りが終わるとレンジの前に集まって、ホワイトソースづくり、スープづくりなど加熱する作業に移ります。コールスローサラダはドレッシングをつくって、それに野菜をあえます。

メインのクロックムッシュは、食パンを半分に切り、ハムとホワイトソースを挟み、食べる直前にチーズをのせて焼くのです。できあがった料理を人数分に分けて食器に盛りつければ完成。その後、自分たちでつくった料理を食べるみなさんは笑顔いっぱいでした。

この後、男性たちは7月19日に、肉じゃがとだし巻き卵、わかめときゅうりの酢の物にオクラの味噌汁という和食を習い、7月26日には中華料理に挑戦。餃子、麻婆豆腐、春雨サラダ、大学芋を習いました。



←7月15日に学んだ料理
見るだけでも、おいしそうです。

「家族を招いて、 みんなで バーベキューやろう！」

ところで、この講座に参加した男性は、学習した料理を家庭でつくっているのでしょうか？仲町公民館の講座に参加した男性が8月19日の夕方、市内の居酒屋に集まり、交流会をしようというので行って、聞いてみました。

「つくった」という人がいました。「妻が仕事でつくれないうので、肉じゃがをつくりました」という吉田さんです。家族の反応を聞いてみると「妻は、おいしい！と言ってくれたんですが、息子は、まあまあとしか言わないんですよ」と、うれしそうでした。

「料理、楽しかったですか？」と聞いてみると、「きついですね。失敗できないでしょ。家族が食べるのだから…。レシピを見ながらつくりました」という答えでした。この話を交流会で聞いた男性たちは「吉田さんの気持ち、わかる」と言っていました。習った料理を家庭でつくった男性は吉田さん以外にいなかったようですが、機会があったらつくりたいと思っているようでした。

交流会では自己紹介を兼ねて、出身地・職業・住まいの場所、小平のいいところを順に話したのですが、

小平市内で生まれ育った人は2人だけでした。熊本県や京都府出身の人や都内の葛飾区出身の人がいました。住まいは様々でしたが、多かったのが「妻の実家が小平なので」という人。妻の実家の近くに家を買って暮らしているそうです。職業は多種多様でしたが、小平のいいところは「平和」で「平坦」なまちということで一致しました。

講座で学んだ料理を家庭でつくっている人が少ない現状を踏まえて、「家族に料理をふるまう機会を持ちたい」と思いませんか？と聞いてみました。すると、「家族を招いて、バーベキューをやろう！」という提案が出ました。これには、「屋台を出してやりましょう」「流しそうめんもいいじゃないですか？」「必要なものをみんなで持ち寄ればいいよ」と、次々と意見が出て、「9月にやろうよ」ということになりました。

問題は場所でした。公立昭和病院の近くにある「たけのこ公園」と都立小平西高等学校の近くにある「きつねっぱら公園」のどちらにするか？住まいからの距離が違うので意見が割れましたが、申し込んでみることにしました。みなさんにとって初めてのイベントですが、やる気満々。

料理をやってみようよと、仲町公民館の講座で学習した男性たちが家族のために食べ物を提供するイベント



をするとなれば、正に講座で学んだ料理をつくるチャンス。料理を学ぶ段階から一歩前進しようとしていきます。このイベントで家族が喜んでくれれば自信がついて、料理をつくる機会が増えることになるでしょう。



料理講座を求めている男性がいる

男性がいる

仲町公民館の料理講座に参加した男性を見ると、多くの女性が専業主婦だった時代の男性と違うことを感じます。以前なら男性が参加できる料理教室は、定年で退職した男性と妻を亡くした男性を対象にしています。今回の仲町公民館で開催された講座は小学生以下の子どもを持つ父親が対象でした。

これは多くの女性が働くようになった今、家事を分担することが男性に求められており、男性も料理を

知っている必要があるのです。子どもができればなおさらです。しかし、料理を学ぶ機会がありません。独身時代に自炊の経験のある男性は少なく、料理学校に通う時間がありません。短時間で学べる料理講座を必要としている男性がいます。

今回の講座は、そんな男性の心をつかみました。参加した男性は楽しそうでもっともつとやりたいと思っている人ばかりでした。

料理だけではありません。子どもを抱っこしたり、ベビーカーに乗せている男性を見る機会が増えました。親の介護で仕事を辞めたり、変えたりする男性も増えていきます。子育てや介護の知識や実技を学ぶ機会を求めている男性も少なくないはず。

内閣府が行った世論調査でも、「男



料理講座5回目の参加者とスタッフ

性も家事・育児を行うことは、当然である」と考える男性は60%に近く、女性より10ポイントも多いのです。「男性が家事・育児を行うと子どもにいい影響を与える」と考える男性も50%近くいます。さらに「家事・育児を行うと、時間の使い方が効率的で仕事もできる」と考えたり、「充実感が得られる」と考える男性も30%に近いのです。しかし、「仕事との両立が難しい」と考える男性が同じくらいいました。

つまり、男性の家庭参加を広めることは多くの男性にとって必要なことで、男性が家事・育児等に主体的に参画することは、生活を共にする女性や子どもにとっても嬉しいことです。ワーク・ライフ・バランスの推進や働き方改革は始まっていますが、まだまだです。

それは、働く女性にとっても必要なことですが、働く人だけでは実現できません。企業の幹部や事業者なども従業員のことを考えて、改革をしなければなりません。それが進むと、職場でも家庭でも男女が平等に参画する社会＝男女共同参画社会づくりにつながるのです。

したがって、仲町公民館で料理を学んだ男性のみさんの行動も、男女共同参画社会づくりにつながっているのです。

育児休業を利用して

私が勤める会社では、2015年に制度が変わり、男性が育児休業制度を利用しやすくなりました。長女の子育てにもできるだけ参加してきましたが、第二子が生まれるにあたり、今できることをしてみようと、制度の利用を考えました。

母子の退院に合わせて休業を始める予定としていたため、間際まで利用期間を確定することができなかったのですが、仕事のスケジュール調整や上司、同僚の理解とサポートにより、実現できました。16日間の休業中は育児と家事に専念。毎日三食の食事作りをはじめ、不慣れなことが多く苦労しました。休業期間を終えても、家事も育児も終わりません。休業中に覚えた家事や感じた苦労は、今も役立っています。

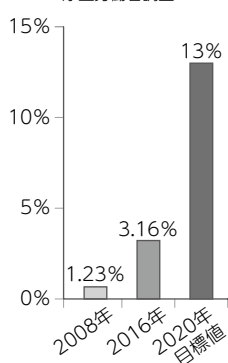
男性の育児や家庭参加のあり方はいろいろあると思いますが、取り組むことで改めて気づくことも多く、ワーク・ライフ・バランスの充実にもつながるのではと感じています。

その後もこの制度を利用する男性社員が続いていると聞いていますが、まだまだ数は少なく、積極的に取り組む人が増えることを望みます。

(花小金井在住42歳 会社員男性)

男性の育児休業

厚生労働省調査



■ 育児休業取得率

子育て・家事をするパパの強い味方 「秘密結社 主夫の友」

◆なかば「ひらきなおり」で
子育て・家事参加
だんだん本気で取り組む

堀込タイゾーさんをCEOとする「秘密結社 主夫の友」の会員5人が話す主夫の子育て・家事講座が西東京市で今夏に開かれ、参加者は30〜40代のカップルばかりだった（*）。CEOによると「主夫」の定義は「主体的に家事・育児をする夫」である。そして、世の中が女性の社会進出を説くのなら、男性の家庭進出も進めようというのが、秘密結社の目標である。

この団体には例えば、夫婦で十分話し合って次のように決めた人たちがいる。プロの料理人という専門分野を活かして子育て・家事をこなす人や物の値段にこだわらない妻に代わり、在宅の仕事をしながら子育て・家事をする人がいる。仕事と家庭を両



【会場の様子】
「どうしたら皆さんのようになれるのですか」という質問も出た



左から しゅうちゃん、堀込さん、勝間さん、坪井さん、吉田さん

立させようと妻が怒ってばかりいるので、家庭平和のために主夫業に就いた人がいる。スーパーに行く時間もないほど働く妻と暮らす人もいる。午前6時から午後8時までを「主夫営業時間」と決めていて、その主義を変えたりしない。闘病中、妻の「私が働くから」の一言で専業主夫に転向した人もいる。初めの頃は、すぐく抵抗があった家事も、続けるうちに道を極め、今ではブログでレシピを発信するほどに上達した。子どもにもメロメロなパパになり、病が癒えた今は別人のようにいきいきとしている。

秘密結社の面々のうち、今から20年ほど前に始まった「家庭科共修世代」は、子育て・家事に対する抵抗感が少ない。子どものときから経験したことがあるから、学校で習ったことがあから、取り組むのが比較的

平気なのだ。主夫たちは、大勢いるママ友から「パパなのに（〜）をして」スゴイね」と言われるのはうれしいが、「男なのにエライね」と言われるのは、心外だと話していた。

.....

今から30年ほど前、私の友人は子どもが5人いるので、当然のことながら夫が幼稚園の送迎をしていた。母親たちから「どうして昼間に家にいるの？小説家？画家？お米屋さん？」と不審がられる謎の男性で、女性たちから話しかけてもらえなかった。時代は変わっても、5人5様の子育て・家事参加があるのが自然だと思ふ。男女で違うのではない。顔が違うように、その人その人で違うと思う。（下）

（*）西東京市男女平等推進センターパリエテで平成29年7月16日に開催された、地域に飛び出せ！パパ講座「男と女、違う？違う？ない？主夫の子育て・家事講座」

「秘密結社 主夫の友」

http://mainbo.com
しゅうちゃんほかメンバーのブログ
http://ameblo.jp/greenhal/
http://kengyoshuhublog.fc2.com
子育て日記
葛飾区亀有在住兼業主夫坪井博一の
楽しいパパ育児ライフ

「子育て主夫青春物語」タイゾー 著

子育てと仕事の両立

私の長男夫妻は都内の別々の大学院で教えています。2人には6歳と1歳の2人の子どもがおり、子育て真最中でもあります。

2人ともアメリカに留学して自炊の経験もあり、その経験を活かして家事と育児を驚くほど手際よく片付けています。2人の子どもは家庭では手洗い、歯磨き、食事をはじめ生活習慣を厳しく教えられています。

また0歳から近くの区立保育園のお世話になっています。

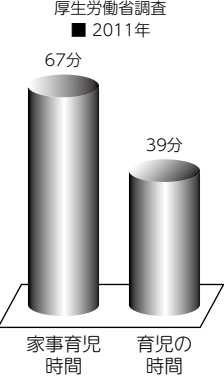
保育園では先生方がとても熱心で唱歌やお遊戯、運動等を教えてくださるので毎日楽しそうに通っています。

毎日の送迎は2人の仕事の都合によって分担しています。万一都合がつかないときは、私の妻が応援に駆けつけています。保育園等の整備、本人の自覚と経験、家族の応援態勢を整えることによって、2人がハードな仕事をしていて、育児休暇をとれなくても仕事と家事・育児を両立させることができると思います。

（学園西町在住）

■家事・育児時間

6歳未満児がいる夫の家事育児時間



紹介します

女性の就労支援講座

ママが社会へ一歩 踏み出すために

結婚や出産等により退職した女性が、再び働きたいと考えたとき、子どもを連れて職探しをすることや、数年経過してから再度社会に踏み出すことに不安を覚えることがあります。再就職を考えながら迷っている子育て中の女性のための情報提供や、第一歩の踏み出し方を学ぶための支援講座を開催します。

【日時】平成29年10月24日（火）
10時～12時（保育あり）

【場所】中央公民館 講座室2

当日は、講師としてマザーズハローワーク立川から「就職支援ナビゲーター」をお招きしてお話をさせていただきます。また希望者は個別相談を受けることができます。

平成29年度 女性の就労支援講座
私らしい働き方で幸せになる
～いつか働くために今できること～

- 日時：10月24日（火）10時～12時
- 場所：小平市中央公民館 講座室2
- 講師：マザーズハローワーク立川 就職支援ナビゲーター
- 対象：結婚・出産等により退職した女性
- 定員：20名 ＊下記申込先へ
- 費用：無料

【お問い合わせ先】
1. 本講座はどのようなこと（対象年齢・申し込みの時期など）ですか？
2. 就業支援の具体的な内容（求職の仕方、面接の準備など）は？
3. 就業支援の費用（お申し込み費、受講料など）は？
4. 小平市の就業支援センター（就業支援センター）の役割は？
5. 小平市の就業支援センター（ワークスペース）のサービスは？
6. 就業支援センターのサービスは？
7. 就業支援センターのサービスは？

【申込・申込先】
小平市中央公民館 就業支援センター 就業支援係
電話：042-546-5612 FAX：042-546-5575
Email: hsp@hsp.or.jp
〒186-8501 小平市中央公民館 就業支援センター

パープルリボン運動

11月12日～25日



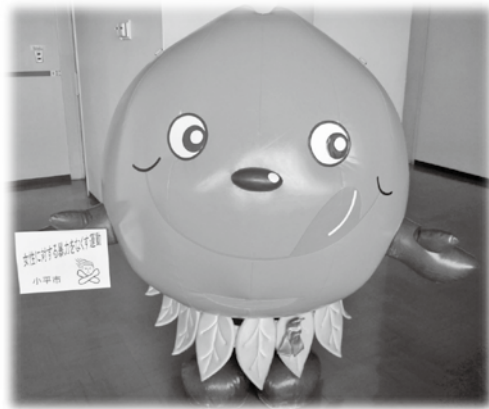
パープルリボンは、女性への暴力の根絶を訴える運動のシンボルマークです。

内閣府の男女共同参画本部では、毎年11月12日から25日までの2週間を「女性に対する暴力をなくす運動」期間と定めています。

女性に対する暴力根絶のシンボルであるパープルリボンにちなんで、運動期間の初日に東京タワーと東京スカイツリーのパープル・ライトアップが実施されています。パープル・ライトアップには、女性に対する暴力根絶と、被害者に対して「ひとりでも悩まず、まずは相談してください」というメッセージが込められており、運動期間中、全国各地でも賛同する施設が増えています。

女性に対する暴力は、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害です。配偶者暴力には、身体的暴行、心理的攻撃、経済的圧迫、性的強要などがあり、被害者の多くが女性です。その他、ストーカー、性

犯罪、メディアにおける性暴力表現など、あらゆる暴力を根絶するために、講座を開催したり身近な場所です心安して相談できる場所を設置しています。



パープルリボンと同じ紫色のぶるべも応援しています！

女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク



小平市 女性相談室

電話 042-345(345) 2415

月～土 午前10時～午後4時
(日・祝日・年末年始を除く)

生き方、仕事や働き方、家族のこと、パートナーのことなど、ひとりで悩まずお気軽に相談ください。

人権（LGBT）講座

LGBTって何だろう

～多様な生き方を理解しよう～（仮）

【日時】平成29年12月10日（日）
10時～12時

【場所】小平市男女共同参画センター

【講師】原 ミナ汰氏（NPO法人共生社会をつくるセクシユアル・マイノリティ支援全国ネットワーク 代表理事）

市では一人ひとりが大切にされ、自分らしく生き生きと暮らせる社会を目指しています。

オリンピック憲章でも「性別、性的指向による差別の禁止」が規定されており、性的マイノリティ（LGBT等）への正しい理解と配慮が必要です。LGBTについてなんとなくわかっていても、正しい知識は知らない。どんなことに困っているのかなど、性的マイノリティについての基礎的な話をさせていただきます。

お気軽に
お越しください！



男女共同参画週間

懸垂幕とパネル展示



内閣府は「男女共同参画社会基本法」の交付・施行日である平成11年6月30日を踏まえ、毎年6月23日から29日までの一週間を「男女共同参画週間」として、様々な取組を通じ、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について理解を深めることを目指しています。

今年度の男女共同参画週間の標語は、女性も男性も、自らの意思により個性と能力を発揮して活躍できる職場環境を作るためのキャッチフレーズ、「男で、女で、共同作業で」でした。市役所でも1階フロアに特設コーナーを設け、パネル展示や資料配布を行う



男女共同参画週間講演会

「あなたにも

貧困のリスクがある」

上記「男女共同参画週間」期間中の6月25日(日)に、小平市男女共同参画センター利用登録団体が構成する男女共同参画週間実行委員会との共催で講演会を開催しました。

当日はJA東京むさしの小平ファーマーズ・マーケット2階ホールに、「下流老人」著者の藤田孝典氏をお招きし、「ご講演いただきました。幅広い年代の2百名近くの参加者があり、若者や子育て世代が生きやすい社会をつくるためのヒントやリスクについて、ユーモアを交えた穏やかな口調で、丁寧にお話しいただき、大変好評でした。

会場をご提供いただいた、JA東京むさしのご協力に感謝いたします。



女性活躍推進企業

小平市内事業者

「えるぼし」取得、

第一号が誕生しました！

株式会社東京音楽センター
(小平市喜平町)



認定マーク
「えるぼし」
(2段階目)

女性活躍推進法に基づき一般事業主行動計画を策定し、女性の活躍推進に関する状況等の優良な企業が、厚生労働大臣の認定を受けたことを示すマークです。

平成29年8月末までに、東京労働局管内で202社が「えるぼし」企業として認定されました。

小平アクティブプラン21(第三次小平市男女共同参画推進計画)では重点項目の一つに「女性の就業・活躍の支援」を掲げており、働きたいと思う女性が市内で働けるように、市内事業者の職場環境の整備を応援しています。

6月23日～29日男女共同参画週間
自分らしく生き生きと暮らせるまち

小平



ひろく広場

原稿をお寄せください

ひろくの記事や表紙の感想、その他なんでもOKです。原稿(500字以内)には、住所、氏名(ふりがな、原稿掲載は匿名・イニシャル可)、年齢も書いてください。採用された原稿は文意を変えずに短くする場合があります。

あて先 / 小平市小川町二丁目1333番地
小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課
「ひろく広場」係 FAX 042-346-9575
kyodo-danjo@city.kodaira.lg.jp



働く女性を支えよう!

「イクメン」という言葉。もう聞いたことのない方は居ないほど周知されており、改めて調べてみると、広告代理店(株)博報堂の有志によるイクメンクラブが2006年に作った造語のようです。厚労省も育メンプロジェクトを立ち上げ2010年新語・流行語大賞のトップテン入りを果たしました。

一般的には子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性達のことを指すようです。でも正直まだパパ達の頭のどこかでは「妻の機嫌が悪いから仕方なく育児を手伝っている」という考えが残っている方も多いのでは? 「男は外で狩りをして獲物を取るDNAを持ってた生き物だ!」なんて言ったら時代遅れですね。女性特有の出産を除けば、仕事も育児も介

護も男女平等というのが当たり前の社会にするにはどうすべきか。

さて、先日大手町へ向かう電車の中でどこかの頑固そうなオジサンが、「女性が社会進出すると、ますます子どもが減るではないか!」と豪語していました。

そつです! この考えは古いのです。女性労働力率と出生率の関係を見ると、「女性が働く国ほど出生率が上昇する」というのが今や世界の常識です。現在日本が抱える極めて大きな問題の一つが少子化です。これを解決するためにも、働く女性をバックアップする社会の仕組みを強化していく努力をもっともっと積み重ねていくことが重要だと思えます。

この広報誌のような男女共同参画を考える企画にもっと男性が参加しなければ、上記のようなDNAやオジサンの意見はいつまで経っても変わらないですね。

(40歳 2児のパパ 小玉大樹)

平成29年度 女と男のフォーラム 子育てを楽しむ新戦略

講師 安藤哲也さん

(NPO法人ファザリング・ジャパン 代表理事)

開催 平成30年2月25日(日)

午後1時半から

会場 中央公民館2階ホール

登録団体FILE②

きらきらカフェ

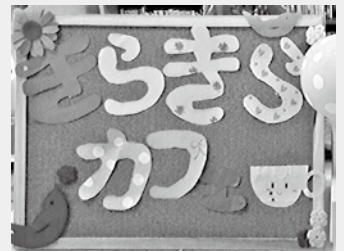
きらきらカフェは、2013年に中央公民館主催講座の受講生で発足した、子育て中のママたちが中心メンバーのサークルです。

「いっしょに子育てしていこう。いっしょに暮らしを楽しもう。」を合言葉に、自分たちも、つながる人たちも、きらきら輝けるような企画を形にしていきたいという思いで場づくりをしています。

これまで、中央公民館にてママたちの才能を広く紹介する「にじいろマルシェ」を2回開催、大盛況を博しました。

2015年からは、月一回程度参画センター“ひろく”を中心に子育て中のママを対象に、大人の塗り絵カフェや刺繍カフェ、まなびカフェなど、さまざま

なテーマのコミュニティカフェを企画・開催しています。カフェはどなたでも参加いただけます。ぜひ一度、足を運んでみて下さい。



また長期休暇には親子でものづくりができる講座を適宜開催中。2017年7月には夏休み特別企画として「親子 DE UVレジン講座」を開催しました。

やりたいことを形にする場所を求めている方、楽しいことを企画してみたい方、ぜひ一緒に活動しませんか? 新規メンバーいつでも大歓迎です! 子ども見守りメンバーも大募集です。

開催予定など詳細は『きらきらカフェ 小平』で検索してください!

きらきらカフェ

メール: kirakiracafe2013@gmail.com

ブログ: <http://ameblo.jp/kirakiracafe2013/>



にじいろマルシェ



お土産の手作りクッキー

男女共同参画センター“ひろく”は、市内で活動する個人や団体を応援しています。

ひらくの言葉「ダブルケア」

ケアすることが2つあるという意味。育児と介護を同時に担う者をダブルケアと内閣府では説明している。初婚年齢や出産年齢が上昇し、育児世代の平均年齢が上昇する中、1人で育児と介護の二つのケアを同時に担う、いわゆるダブルケア問題が社会的関心を集めるようになってきている。

以前は、結婚・出産する女性たちはほぼ20代であったので、両親の介護の時期までには時間があり、その間に子ども達はある程度の年齢になっていた。

しかし、近年、結婚・出産する女性たちの多くは30代から40代になり、その親たちの年代は60代から70代になっています。それは、身体的に手助けが必要な人たちが現れる年代です。そうなれば、幼い子の世

話と両親たちの世話の二重の世話をする状態の人たちが現れるのは当然です。この状態を指す言葉としてダブルケアという言葉が使われるようになったと思われます。（*）

メディアによっては、ダブルケアをすることになる年代の人たちが自覚せよという論調の記事が掲載されていますが、これは社会問題であり、当事者だけで解決できる問題かどうかは疑問が残ります。



*内閣府男女共同参画局ホームページコラムによると、ダブルケアを行うと思われる人は約25万人。うち男性は約8万5千人、女性は約16万8千人と推計されています。

「表紙作品にしよう」

和の美しきがある住まい

「小平新文化住宅」

小平市内にある和の美しさに溢れた家、初めて見た人は誰もが足を止めます。私たちも目を奪われ、『ひらく』の表紙にしたいと思えました。お住まいの郡修彦さん、浅井カヨさんにお願いと、快く受けて下さいました。

ここで生まれた郡さんは、親と一緒に引っ越したことがありましたが、大学生になると戻って来て、祖母と二人でここに住んでいました。二十五年前に祖母が亡くなってからも住み続けていた郡さんですが、浅井さんと知り合ってから、古い家を壊して二人が住む新しい家を建てようと考えました。

郡さんの頭に浮かんだのは、祖父の青年時代に登場した文化住宅。和に洋を取り入れた住宅ですが、すっかり洋風になってしまった現代から見ると、和のよさがたくさんある住まい。郡さんは新しい文化住宅を建てようと思ったのです。

でも、受けてくれる業者を見つけないに苦労したそうです。昨年十月にやっと完成すると、郡さんと浅井さんは門に「小平新文化住宅」という表札を掲げ、この家の魅力を伝える蓄音器観賞会と内覧会を行っています。

一階の和室はエアコンがなくても掃き出し窓を開ければ風通しがいいので夏でも快適。冬は窓を閉めれば日差しがたつぷり、素敵な火鉢に炭火を燃やせば暖かく過ごせるのです。正に和の暮らしがあります。

一階の洋室に入ると、昭和の初めに使われていた蓄音器とたくさんのレコードがあり、その時代の音楽を楽しむことができます。二階には昭和の初めの書物がたくさんあり、この家になると、まるで文化住宅にいるような体験ができるのです。





『ひらく』の書棚

小平市男女共同参画センター“ひらく”にある本の紹介です。本は借りることができます。



『パパは大変が』

『面白い！』に変わる本

安藤哲也 著

〈扶桑社〉

1,300円＋税



本書は、パパの気持ちに寄り添い、アドバイスを送り、疑問を根本から分かりやすく解説する。本文にあるように「人生に一度しかない、家族の絆が深まる大切な期間限定のプロジェクトをかけがえのないものにするため」のパパの参考書ようだ。ママは、イクメンブルーでうつに陥り、休職せざるを得ない働き盛りパパの存在を知っているだろうか？ママにとってもパパを理解する参考書になる。子育てが一段落した世代の方々は、昨今の子育て事情をご存知だろうか？本書から日本の現状を知る事ができ、シニア世代の方々にも参考書になる。そんな参考書だから、相手を想い理解しようとする気持ちの大切さが伝わる。パパは勿論、ママにも読んでほしい1冊である。

(ナ)

『ワンオペ育児』

〜わかってほしい休めない日常〜

藤田結子 著

〈毎日新聞出版〉

1,300円＋税



『ワンオペ育児』とはブラック企業の「ワンオペ」(ワンオペレーション＝一人作業)

が母親たちの育児や家事の状況とそっくりなことだから、ネット上を中心に使われ始めた言葉。

大学教授の著者は「女性活躍社会」と言われながら仕事と育児を両立する環境が整備されていない現状で、家事育児を一人でこなさざるを得ない働く女性たちが、へとへと毎日を送っている状態を様々な角度から調査して、問題点を挙げています。

日本の社会保障制度、企業の雇用制度の問題もあるが、夫や上司(男性)と女性との子育てに対する意識の違いなどもある。

最後の章に「ワンオペ育児」を乗り切る方法がいくつか記されている。一人で無理せずに身内やママ友などのネットワーク、自治体の子育て支援などを利用する。あきらめずに思いを伝え行動することが大事だと書かれている。(A)

『2ペーン』

我が妻・田部井淳子の生き方

田部井政伸 著

〈宝島社〉

1,200円＋税



1975年、田部井政伸氏の妻である田部井淳子さんは、女性として世界初のエベレスト登頂を果たした。彼女が登頂を目指した半年間、政伸氏は義姉の協力を得ながら3才の娘と日本で成功を見守った。その後淳子さんは世界の高峰を制覇していき

世界の田部井となっていく。そして政伸氏も彼女の活動を見守りながら、ヨーロッパ三大北壁にも挑戦し、小学生の息子とともにバイクでアメリカ大陸横断を果たしている。山が好きで結婚した二人は、相手の行動に絶対の信頼を持ち尊重し合うことで、互いの活動を広げていく。政伸氏の「妻は妻、私は私」というスタンスが清々しい。淳子さんがガンで亡くなっても「つらいとか、大変とは思わない。まだそこにいるよ。うなんだ」という気持ち。ちよつとوراやましい。(あ)

『対話する社会へ』

暉峻淑子 著

〈岩波新書〉

860円＋税



89歳の著者が体験してきた対話に始まり、練馬区の公共施設で生まれた「対話的研究会」のことに続く。さらに、対話なき社会の弊害と世界平和のための対話の必要性へと進む。

対話は複数の人たちが双方向から「話したい」という気持ちを持つことから始まる。だから、その場の人間関係は対等である。「格差社会」などというところでもない言葉が平気で使われる「いま」だからこそ、対話はとても大事だ。男女共同参画社会は自由にコミュニケーションができる社会を指す。対話する社会とは男女共同参画社会のことにはちがいない。(T)



**行って
みました**

小平神明幼稚園おやじの会 流しソーメン

父親たちが子どもたちのためにそうめんを流し
子どもたちと一緒に食べるイベントに行ってきました。

楽しさいっぱい、おいしさいっぱい

7月22日午前10時頃、小平神明宮の横にある小平神明幼稚園の園庭に行ってみると、父親たちがそうめんを流す樋(とい)を作っていました。幼稚園の奥にある竹林から長い竹を2本切り出し、それを園庭で半分に切り、樋にする竹は2つに割って、節目にある竹を丁寧に削ってそうめんが流れるようにするのです。楽しく作業をしているのを見て、びっくり。「そこまでやるんだ!？」

やっている父親に聞くと、「役割分担はありますが、みんな、できることをやっています」と、笑顔で話してくれました。周りを見ると、もう1本の竹を小さく切って食器を作っている、バーベキューの器具に入れる木炭に火をつけている、火のついた木炭を3つの器具に分けて入れている、焼き鳥や野菜炒めをつくる、ビニールプールにジュースや水、ビールなどを入れて冷やしている、受付をしているなど、さまざまな役割をしています。園庭から見えない室内で、そうめんを茹でているのも、つゆを作っているのも父親だそうです。

この日のメイン、そうめんを流す装置づくりになると多くの父親が集まり、2本の樋の傾き、子ども

も食べやすい高さなどを調整し、一番下にはたっぷり水の入った桶を置いていました。流しそうめんが始まると、10数人の父親、30人近い子ども、数人の母親など参加者全員が2本の樋を囲み、流れるそうめんをすくい取り、つゆにつけて食べ始めます。

最初は小さい子どもが食べ、次に大きい子どもや母親、父親たちが食べ始めると、楽しさいっぱい。おいしさいっぱい。子どもと一緒に食べる、缶ビールを飲みながら食べる、焼き鳥や野菜炒めを食べる、周りに食べ物や飲み物を配るなど、食べ方はさまざまですが、みんな、楽しそう。

流しそうめんが終わっても、マッシュマロ焼き、スイカ割り、ヨーヨーつりと続くイベントに子どもは夢中でした。中で面白かったのがスイカ割り。思うように割れない子どもが多い中で、きれいに割った子どもが出ると、見ている父親たちが拍手と歓声、そして写真撮影。

見ているだけでも、父親にとっても子どもにとっても、いい夏の思い出になるなあと思いました。このイベント、おやじの会の父親にとっては「最高の思い出」になるに違いありません。



小平神明幼稚園のおやじの会ができたのは2001年秋、今年で16年になります。その魅力を会員は「地域と一緒に楽しいことができる友達、年齢は違っても気楽に話せる友達、一緒に楽しい酒が飲める友達がいることです」といいます。地域で孤独になりがちな男性にとって、神明おやじの会は「最高の居場所」といえるでしょう。

ひらくはココにあります。

男女共同参画センター“ひらく”、公民館(11館)、図書館(11館)、地域センター(19館)、大学(6カ所)、福祉会館、市民総合体育館、児童館(3館)、健康センター、健康福祉事務センター、市役所、東部・西部出張所、郵便局(17カ所)、市内各駅(7カ所)、ふれあい下水道館

小川町 手作りクッキーの店歩、商工会館、JA 東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、南台病院

小川西町 佐野商店、たましん小平支店、NMC ギャラリー、小川ホーム

小川東町 キャラリー青らんぎ 上水本町 アトリエ・パンセ

学園西町 ビューティーサロンサンローズ、梁里館、美容室ヘアアグラシユ、本間歯科、ヘアサロンサンライズ、あかね薬局、床屋のけんちゃん、笹間住宅資材、たましん一橋学園支店、学園接骨院、国際交流協会

学園東町 日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、りそな銀行小平支店、東京都銀行小平支店、おだまき工房、きそ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室 Je、とりあん、一橋鍼灸接骨院、お化粧のしのざき

美園町 多摩済生病院、カフェラガラス、珈琲の香、POEM(ぼえむ)、永田珈琲、ルネこだいら、小平駅前クリニック、シャンブル、子育てサポートきらら

仲町 小平消防署 大沼町 ガスミュージアム

花小金井 風のシンフォニー、公立昭和病院

編集後記

●家庭参加をしているパパさん取材しました。「いろんな職種の方と出会えます」「みんな特技を持っていて刺激的です」「年齢に関係なくワイワイ楽しいです」「話して聞きました。最後にいいでしょ、このコミュニティと、ドヤ顔。目を輝かせた、カッコいいパパさんに出会いました。取材に応じていただき、ありがとうございました。(付)

●楽しそうにイベントに参加したり、料理をつくったりしている男性にお会いして、時代の変化を感じました。みなさん、子育ても家事もしたい、家庭参加したい男性ばかりでした。(北さん)

小平在住・在勤・在学の女性を訪ねて、そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

いきいき

レディ 39



音楽大学を卒業し、ピアノ指導とピアノの伴奏をご職業にいらっしゃる下村さん。夫はオペラ歌手で、お子さんもパーカッショニストという音楽一家です。「音楽を生業に、続けていくのは、覚悟のいることです。演奏者の多くの女性は晩婚だったり、結婚しても子どもを持つことを諦めたり、なかなか二足のわらじでできるお仕事ではありません。」という下村さんは、ご実家や自宅でピアノ教室ができたので結婚して育児中もお仕事を続けられ、音楽から離れずにいられたそうです。

以前は、お子さんが通っていた市内の小学校で課外の音楽グループに関わり、子ども達に音楽の楽しさ

気がつかないけれど、 誰にでもゴールがあって、 持続していれば必ず到達します

ピアニスト・ピアノ教室主宰 **下村敬子** さん

を伝えるなど外での音楽活動も積極的にされ、ご自分のお子さんも含め、多くの子ども達を音楽を通して育てることを楽しんでこられました。しかし、この後の転機でご自身が育っていく方向に進むことになりました。

その転機は、東日本大震災の前後にありました。まず、夫のリサイタルにピンチヒッターで伴奏する機会が訪れます。舞台に立つということから離れていた下村さんでしたが、意を決してチャレンジ。そして震災後すぐ、夫が発起人となって小平市で東日本大震災復興支援のためのチャリティコンサートを市内の合唱団と全国のプロのオペラ歌手の方々により催し、下村さんはここでも伴奏をします。多くの方々が集まり多くの寄付を受けられたことにとても感動し、音楽が人をつなげ、助けるという実感をステージ上で肌で感じたそうです。下村さんご夫婦のコンサートは評判となり、全国で演奏活動をするようになります。下村さん個人でも市内や市外の合唱団の伴奏者として活躍されるようになりました。

「何かを続けていくなら、上達しなければなりません。そのためにいくつになってもチャレンジをし続けます。」伴奏という表舞台に復活した下村さんは、ご自分も定期的に指導を受けているそうです。

「男女、年齢関係なく夢を持ってゴールを目指していいと思います。全ての人は磨かれる前の原石で、年月をかけて磨いていくというのが私たちの一生をかけてのお仕事。磨くために人との出会いを大事にし、周りの人は夢のある人に協力をするのも大切なことだと思います。」

自分のゴールは何なのか？ いつなのか？ 下村さんのように持続し、チャレンジすることでゴールにいつか到達できるのだと思います。



小平市男女共同参画センター 最近の動き

書籍、DVDがたくさんあります！

参画センター“ひらく”には、男女共同参画社会づくりに関する書籍やDVD、資料がたくさんあります。たとえば、「男女共同参画で地域力UP」という4枚組のDVDは、ワーク・ライフ・バランスに努める企業のこと、家庭で家事・育児をする男性のこと、男女共同参画で進める防災や災害復興のことがわかりやすく説明されています。「男女共同参画って、難しい」と思っていたらっしやる方に見てほしいDVDです。

参画センターには図書館にない書籍も多く、書棚から自由に取り出して読むことができます。家に帰って読みたいと思った人には貸し出しもしています。「書籍貸出簿」に住所、氏名、返却日などを書けば借りられます。借りた書籍には返却日を記した「しおり」が付けられます。貸出期間は最長2週間です。お気軽に専任スタッフに声をおかけください。

ひらく

第41号
平成29年10月発行

発行/小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9575

企画・編集/男女共同参画推進実行委員会

浅野 里美	北川 紘二	谷原 裕子
安食世津子	酒井 愛	野崎 裕子
阿部 直子	寿福院美屋子	吉岡 博江
岡 武左	高橋 雅子	吉村 順介
岸 和夫	高橋 賢治	

『ひらく』は男女平等な社会、だれもが生きやすい社会、住みやすい地域を作るために役立つ広報誌です。公募市民が企画・編集をしています。